

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7235223号

(P7235223)

(45)発行日 令和5年3月8日(2023.3.8)

(24)登録日 令和5年2月28日(2023.2.28)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

A 6 1 F

5/44

W

A 6 1 G 7/10 (2006.01)

A 6 1 G

7/10

請求項の数 1 (全10頁)

(21)出願番号 特願2018-236785(P2018-236785)
 (22)出願日 平成30年11月30日(2018.11.30)
 (65)公開番号 特開2020-81827(P2020-81827A)
 (43)公開日 令和2年6月4日(2020.6.4)
 審査請求日 令和3年11月24日(2021.11.24)

(73)特許権者 593007567
 阿部 薫
 茨城県水戸市城南3 - 1 6 - 1 3 - 3 0
 2
 (73)特許権者 599125559
 阿部 能理満
 茨城県水戸市堀町1 1 2 1—2
 (73)特許権者 599125548
 阿部 益喜啓
 茨城県水戸市堀町1 1 2 1—2
 (73)特許権者 511022948
 阿部 由佳
 茨城県水戸市城南3 - 1 6 - 1 3 - 3 0
 2
 (73)特許権者 518226237

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 おむつ交換具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

プラスチックで成形した被介助者の背中を受ける背中受け本体と、この背中受け本体に回転自在に足掛けを取り付け、足掛けの取り付け位置を前後に調整可能に構成したものであって、前記背中受け本体は、左右に湾曲し、且つ、後方を前方より高く湾曲に形成したおむつ交換具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、おむつ交換具に関し、特に、被介助者の両足を持ち上げ、両足を足掛け部に引っ掛けておむつ交換をするおむつ交換具に関する。

【0002】

寝たきりの人は、自分でトイレに行くことができないので、トイレに行くには家族や介護士の助けを借りることになる。

トイレに行けない成人や幼児については、通常、おむつを着用するが、重い臀部や両足を持ち上げなければならないので、大きな力を必要とし、大変な労力を伴うものである。

特に、大人は体が重いので、力のない女性や介護士にはきつい仕事となる。

【0003】

又、高齢になると頻尿になるので、夜中に頻繁におむつ交換をしなければならず、家族の負担は大きい。

10

20

家族の負担を軽減するため施設に入れることも考えるが、本人が希望しないことや金銭的な問題もあり、これも儘ならないのが実情である。

デイサービスを利用することも考えるが、日中はともかく、夜は家族が世話しなければならないので、家族や介護士の負担は同様に大である。

【 0 0 0 4 】

又、紙おむつを使用することによって家族の負担は軽減されるが、おむつの交換で両足と臀部を持ち上げなければならないのは同じであり、重労働は解消されない。

【 0 0 0 5 】

又、排泄物には多量の水分を含んでおり、水滴が飛散して不衛生であり、清潔に使用できるおむつ交換具が望まれている。

10

【 0 0 0 6 】

本発明は、前記課題を解決することを指向し、おむつ交換に際し、人体で最も重い臀部と腰部を背中受け本体で直接的に支持して労力を軽減し、一人でも容易におむつ交換ができるおむつ交換具を提供することである。

【 0 0 0 7 】

【先行技術文献】

【特許文献】

【 0 0 0 8 】

【文献】特開 2 0 0 7 - 3 0 1 1 5 0 号公報

特開 2 0 1 4 - 2 0 4 8 5 0 号公報

20

登録実用新案第 3 1 1 5 2 8 3 号公報

特開 2 0 0 3 - 0 8 8 4 4 1 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 9 】

特許文献 1 の発明は、「おむつ取換え介護装置」で、図示のように、足掛け部（ 1 2 ）を有する足掛け枠体（ 1 ）を被介護者を乗せる基体（ 2 ）に回転自在に取り付けたものである。

しかしこの発明では、基体 2 が平板で構成されているので、介護助者が、被介護者の足を持ち上げて足掛け部に引っ掛けるとき、重い臀部や腰部を一緒に持ち上げなければならないという課題がある。

30

そのため従来は、おむつを取り替えるためには複数の介護者を必要とした。

これは、臀部と腰部が、非常に重いからである。

上記課題を解決するために本発明は、背中受け面の形状を改良し、人体で最も重い臀部や腰部を背中受け本体で直接受けるようにし、臀部や腰部を浮かせた状態に保持できるようにするものである。

結果として、足を足掛け部に引っ掛けるとき、足を持ち上げるだけの小さな力で済むので、おむつの取り替え作業が一人で行えるようになる。

【 0 0 1 0 】

特許文献 2 の発明は、エアマットで構成される「介護補助具及び介護補助具セット」で、その構成は、体幹部支持部と大腿部支持部の間に空間を形成したものである。

40

そして、おむつを取り替えるとき、前記空間に手を挿入し、手で体幹部や大腿部を下から押し上げるようにすると述べている。

臀部や体幹部は、人体で最も重い部分であり、臀部や体幹部が空間上に位置させているので、おむつ替えのときは、臀部や体幹部も足と共に同時に持ち上げなければならない、大きな力を必要とし、一人でおむつの取り替え作業をすることが困難になる。

これに対して本発明は、背中受け面の後方を前方より高く形成し、高い部分で被介護者の重い臀部を直接受けるようにし、小さな力で足を持ち上げるようにしたものである。

【 0 0 1 1 】

特許文献 3 の考案は、「リハビリ支援おむつ交換補助具」で、脚保持部 8 を下方に弧状

50

の凹部 1 に形成してしたものである。

一方、本願発明の背中受け本体の背中受け面を、前記のように、「後方を前方より高く形成」し、「人体で最も重い臀部や腰部を、この背中受け面の高い部分で直接受けようにした」ものである。

これにより、臀部は背中受け面で浮かせた状態に保持できるようになり、足を軽い力で持ち上げることができるものであり、特許文献 3 の考案とは相違している。

【 0 0 1 2 】

特許文献 4 の発明は、ひざ枕の取り付け位置を前後可能にした「座椅子」である。

これに対して、本願発明の主たる目的は、人体で最も重い臀部を背中受け本体で直接受け、被介助者を小さな力で持ち上げることできるおむつ交換具の提供しようとするものである。

10

すなわち、本願発明は、特許文献 4 に記載された、ひざ枕の取り付け位置を前後に調節することではなく、前記のように、被介助者の臀部を背中本体で直接的に受けて、小さな力でおむつの付け替え作業を行うことができるおむつ交換具を提供するものである。

【 0 0 1 3 】

前述の特許文献に開示された発明、あるいは考案には、本発明の発明が開示、又は、示唆がありません。

前記に着目し本発明の目的は、前記課題を解決することを指向し、おむつ交換に際し、人体で最も重い臀部と腰部を背中受け本体で直接的に支持し、労力を軽減し、一人でも容易におむつ交換ができるおむつ交換具を提供することである

20

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 4 】

前記目的は、プラスチックで成形した被介助者の背中を受ける背中受け本体に回転自在に足掛けを取り付け、足掛けの取り付け位置を前後に調整可能に構成したものであって、前記背中受け本体は、左右に湾曲し、且つ、後方を前方より高く湾曲に形成したことによって達成される。

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

前記構成によって本発明を実施すれば、おむつ交換に際し、人体で最も重い臀部と腰部が浮き上がった状態で、背中受け本体で直接的に受けことができ、小さな力で臀部や腰部を持ち上げることができ、労力が軽減され、一人でも容易におむつ交換ができるおむつ交換具を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 6 】

【図 1】本発明の一実施例を示すおむつ交換具の平面図。

【図 2】同正面図。

【図 3】同右側面図

【図 4】図 1 の A—A 断面図。

【図 5】同下面図。

【図 6】前記本発明の一実施例構成で、臀部が浮き上がっている状態を示す図。

40

【図 7】本発明のおむつ交換具と組み合わせて使用する汚物受けパレットの平面図。

【図 8】同側面図。

【図 9】前記図 7 の B—B 断面図。

【図 10】本発明で使用する汚物受けシートの平面図。

【図 11】同平面図。

【図 12】本発明の他の実施例を示す平面図。

【図 13】同正面図。

【図 14】同右側面図。

【図 15】同下面図。

【図 16】前記他の実施例で、臀部が浮き上がっている状態を示す図。

50

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、本発明の一実施例を図1乃至図11に基づいて説明する。

図1は、本発明おむつ交換具の全体を示す平面図で、1は、身体全体の背中を保持する背中受け本体で、プラスチックやウレタンフォームなどで形成されている。背中受け本体1には、図2、図3のように、背中受け本体1に身体にフィットするように湾曲形成された背中受け面2が形成されている。

又、この背中受け面2は、図2に示すように、前後にも湾曲して、後方が前方より高くし、臀部が浮き上がるように形成されている。

このとき、身体で最も重い臀部や腰部が、後方の高い湾曲部で直接的に受け止められているので、両足を持ち上げるとき、腕に臀部や腰部の重量が掛からないので、小さな力でおむつ替えができるものとなる。

10

尚、この湾曲部の大きさは、被介助者の身体の大きさに合うように、例えば、大人、女性、子供、幼児の大きさにアレンジすればよい。また、この大きさは任意である。

【0018】

背中受け1の両側面には足掛け3が回転自在に取り付けてある。そして、この足掛け3は、両足を持ち上げたときに、両足を支持するのに十分な強度を持つように、太めの針金で構成されている。又、足掛け3には、図3に示すように、足の形状に合わせて湾曲させた足受け部4を形成している。

5は、背中受け本体1の側面に、回転自在に取り付けるピンである。

20

【0019】

6は、図7乃至図9に示すように、前記背中受け本体1とは別に用意されている便などの排泄物を受けるトレイである。

トレイ6は、樹脂などで構成し、その4辺には、上方に折り曲げた立ち上がり部61が設けられている。

この立ち上がり部61は、トレイ6が排泄物を受けるとき、その汚物や水分が周囲に漏れるのを防止しているものである。

【0020】

このトレイ6には、図10、図11に示したシート7が載置されている。

シート7は、水分透過性の不織布と、水分不透過性の不織布を重ねた積層シートとする。
水分透過性の不織布は、汚物に含まれている水分を吸収すると共に、併せて水分も吸収するので、清潔、且つ、気持ちよく使用できる。

30

水分不透過性不織布は、透過性不織布で受けた水分が、衣服に漏れるのを確実に防止する。

尚、不織布は、普通の織布でもよく、ガーゼのような水分を吸収するものであれば材質は問わない。

【0021】

又、シート7は、トレイ6より大きなサイズとし、排泄部を受けたときに下方に撓んでも排泄物や水分が漏れ出ないように配慮されている。

8は、シート7の一辺に取り付けられた紐で、シート7を捨てるときに、シート7を丸めて縛るのに使用するものである。

40

【0022】

次に、前述のように構成された本発明おむつ交換具の使用例を図6に基づいて説明する。

図6において、介助者は足を持ち上げて、身体の背中を背中受け本体1に乗せる。

背中受け本体1の背中受け面2は、後方に向かって高く形成されているので、身体の背中と臀部が図示のように浮き上がる。

この状態で両足を足掛け3に引っ掛けると、臀部は浮き上がった状態を保持することができる。

臀部や腰部は、人体で最も重い部分なので、これらを持ち上げるには大きな力を必要とするのであるが、本発明では、臀部や腰部が背中本体1で支持している

50

体を持ち上げるとき、軽い足のみを持ち上げればよい。

そのため、おむつの取り替え作業は、一人で容易に行うことができる。

又、このとき、臀部の下、後方に空間が生じているので、この空間に前記トレー 6 を置くことができ、汚物の飛散を防止し、清潔に汚物の処理が可能になる。

【 0 0 2 3 】

図 1 2 乃至図 1 6 は、足掛け 3 の取り付け位置を調節できる他の実施例を示すものである。

尚、図に記入されている符号で前述の一実施例と同一の符号は、同一の部品なので説明は省略してある。

【 0 0 2 4 】

図において、1 0 は、トーションばねである。1 1 は、トーションばねのピンで、このピン 1 1 には、図示しないが身体を支持するのに耐える充分な強いばねが装着されている。

又、トーションばね 1 0 は、2 0 度程度あるいは若干超える角度で停止するように構成されており、おむつ換えのために身体を支持するのに充分な強さに設計されている。

【 0 0 2 5 】

1 2 は、前後にその取り付け位置が調整されたヒンジで、トーションばね 1 0 の下ベース 1 3 の上に取り付けられている。

このヒンジ 1 2 は、コ字状に折り曲げられた針金で形成され、前述の足掛け 3 の回転軸 1 4 を前後に移動可能で、且つ、回転自在に支持するものである。

【 0 0 2 6 】

又、この回転軸 1 4 はヒンジ 1 2 のコ字状の空間に挿入し、前後に移動できるように支持されている。

従って、回転軸 1 4 は前後に調整でき、これにより、身体の大小に応じて、足掛け 3 の高さが調整できるようになる。

【 0 0 2 7 】

又、前記トーションばね 1 0 の上ベース 1 5 の上面には、図 1 3、図 1 6 のように前述した背中受け本体 1 が接着載置してある。

【 0 0 2 8 】

次に、図 1 6 で使用状態について説明する。

図示のように、足掛け 3 の回転軸 1 4 をヒンジ 1 2 の最前方に移動した状態を示しており、この場合、足は高い位置になるので大きな人に無理なく対応できる。

一方、図 1 3 に示したのは、回転軸 1 4 がヒンジ 1 2 の最後方に位置させているので足掛けは低い位置になり、小さい人に適している。

このように本発明は、人の大小に限らず対応され、更に、おむつの交換作業が迅速かつ容易に行うことができる。

【 0 0 2 9 】

本発明は前述のように、背中受け本体が、前方に比して後方を高く形成したので、おむつを取り替えるとき、被介助者の臀部や腰部が浮き上がっている状態に保持することができる。

従って本発明によれば、おむつ交換に際し、人体で最も重い臀部と腰部を、背中受け本体で浮き上がらせた状態で直接的に保持し、介助者一人でも容易におむつ交換ができるおむつ交換具を提供することができたものである。

【符号の説明】

【 0 0 3 0 】

1 ... 背中受け本体、2 ... 背中受け面、3 ... 足掛け、4 ... 足受け部、5 ... ピン、
6 ... トレー、6 1 ... 立ち上がり部、7 ... シート、8 ... 紐、1 0 ... トーションばね、 ...
1 1 ... ピン、1 2 ... ヒンジ、1 3 ... 下ベース、1 4 ... 回転軸、1 5 ... 上ベース

10

20

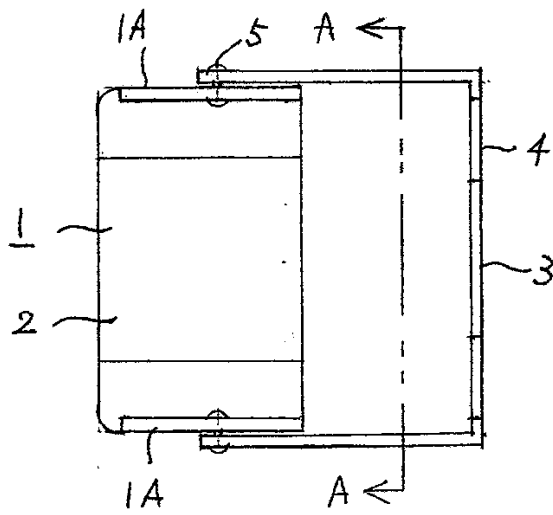
30

40

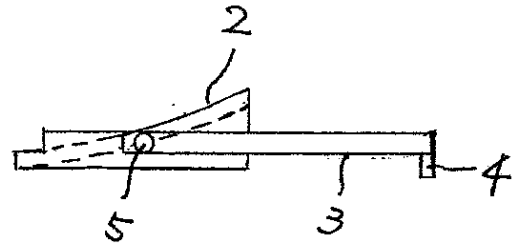
50

【図面】

【図 1】

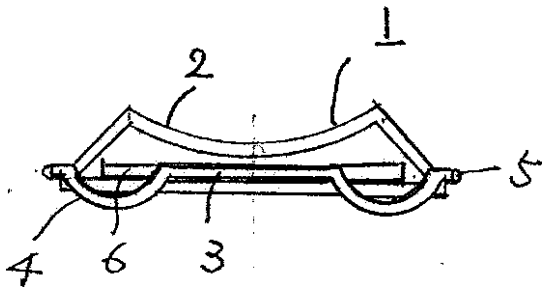


【図 2】

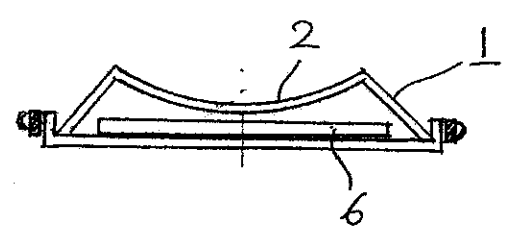


10

【図 3】



【図 4】

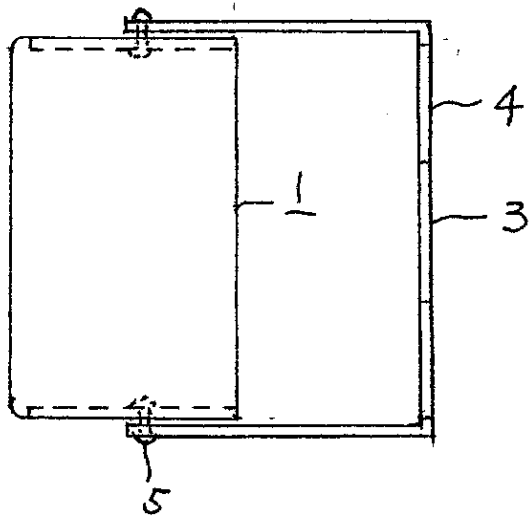


30

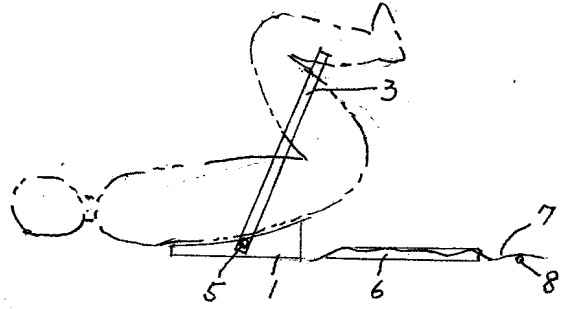
40

50

【図 5】

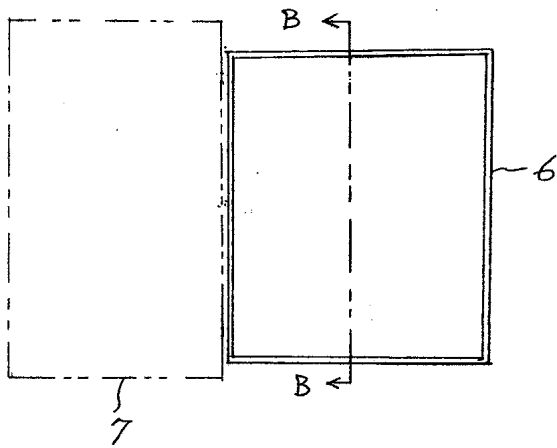


【図 6】

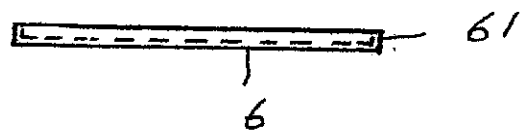


10

【図 7】



【図 8】



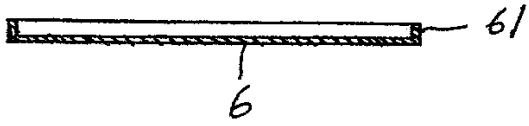
20

30

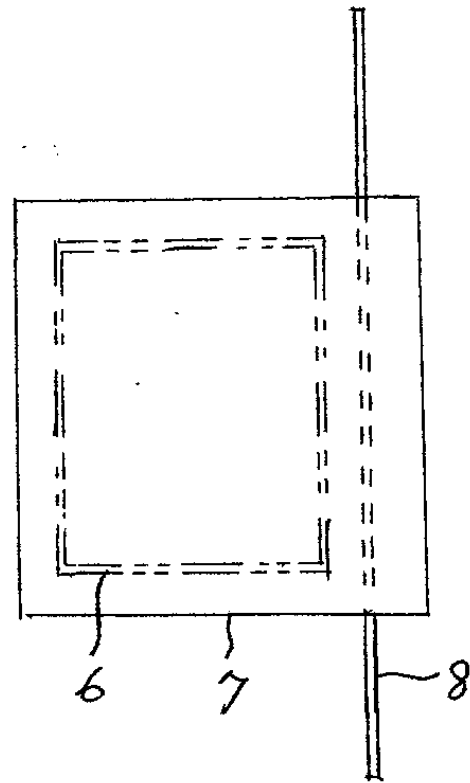
40

50

【図 9】



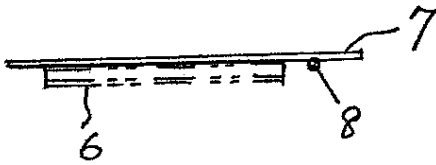
【図 10】



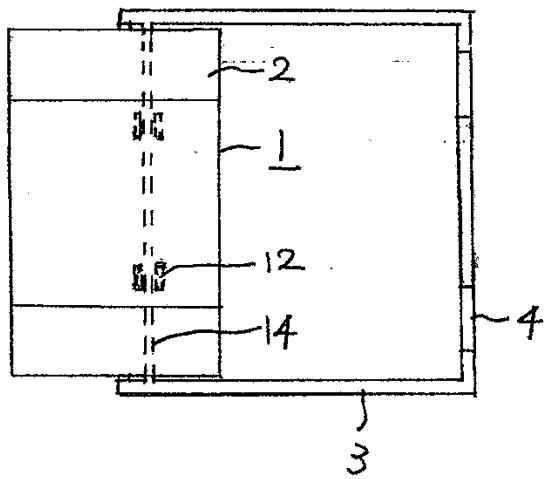
10

20

【図 11】



【図 12】

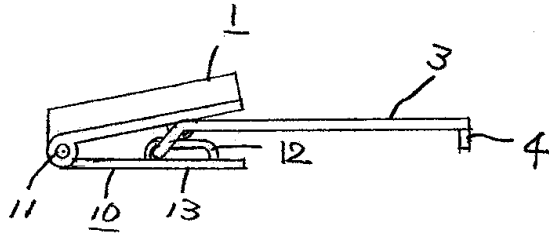


30

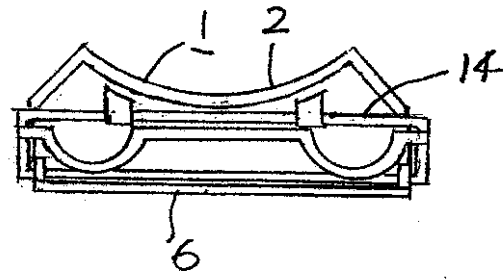
40

50

【図 13】

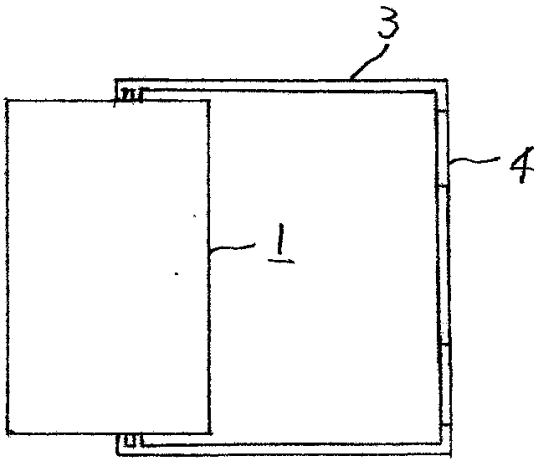


【図 14】

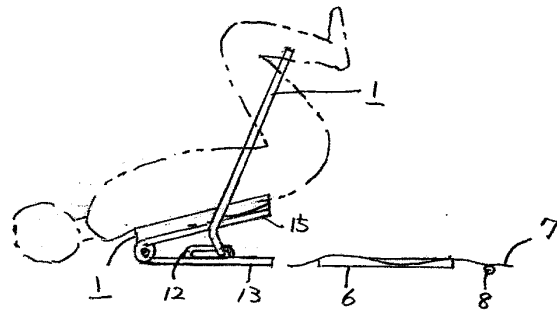


10

【図 15】



【図 16】



20

30

40

50

フロントページの続き

磯 敬三

茨城県水戸市開江町 6 3 7 - 3

(73)特許権者 518226248

磯 久美子

茨城県水戸市開江町 6 3 7 - 3

(73)特許権者 518451895

落合 啓光

茨城県水戸市見川町 2 5 6 3 - 1 0 2 0 コーポピアなかやま E 棟 3 0 3

(72)発明者 阿部 薫

茨城県水戸市城南 3 - 1 6 - 1 3 - 3 0 2

審査官 望月 寛

(56)参考文献 特開 2 0 0 7 - 3 0 1 1 5 0 (J P , A)

特開 2 0 1 4 - 2 0 4 8 5 0 (J P , A)

登録実用新案第 3 1 1 5 2 8 3 (J P , U)

特開 2 0 0 3 - 0 8 8 4 4 1 (J P , A)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)

A 6 1 F 5 / 4 4

A 6 1 G 7 / 1 0